

4. 教務関係

(1) 入学者、在籍者の状況

① 公益学部

イ 男女別在籍者数（令和3年5月1日現在）

性別	1年次	2年次	3年次	4年次	計
男	151	168	177	167	663
女	83	86	71	82	322
計	234	254	248	249	985

ロ 出身地別在籍者数（令和3年5月1日現在）

出身地	1年次	2年次	3年次	4年次	計	
山形県内	村山	47	49	44	50	190
	最上	11	19	20	23	73
	置賜	33	45	41	42	161
	庄内	63	58	47	49	217
	小計	154	171	152	164	641
山形県外	青森県	4	6	6	5	21
	岩手県	8	15	19	17	59
	秋田県	29	23	26	23	101
	宮城県	5	4	7	7	23
	福島県	19	15	21	15	70
	茨城県		2	1		3
	群馬県				1	1
	山梨県	1				1
	埼玉県		1	1	1	3
	東京都	1	2	2		5
	神奈川県	3	5	1	4	13
	千葉県	2				2
	新潟県		3	3	2	8
	石川県		1	2	1	4
	長野県		2	1	2	5
	大阪府				1	1
	奈良県		1			1
	大分県	2		1	3	6
	福岡県			2		2
	宮崎県	1	2	2	2	7
	長崎県		1			1
	滋賀県			1		1
	鹿児島県	2				2
沖縄県	2				2	
中国	1			1	2	
小計	80	83	96	85	344	
合計	234	254	248	249	985	

ハ 退学・除籍・休学の状況（令和2年度）

学 年	1年次		2年次		3年次		4年次		計		累計
退学者	9		3		5		3		20		437
除籍者	0		0		1		0		1		41
休学者	春学期 0	秋学期 4	春学期 0	秋学期 2	春学期 0	秋学期 2	春学期 1	秋学期 1	春学期 1	秋学期 9	—

※ 休学者の数は在籍者の内数

② 公益学研究科 [収容定員 修士課程 60名、博士後期課程 12名]

イ 男女別在籍者数（令和3年5月1日現在）

性別	修士1年	修士2年	博士後期1年	博士後期2年	博士後期3年	合計
男	3	2	1	0	1	7
女	2	2	0	0	2	6
計	5	4	1	0	3	13

ロ 出身地別在籍者数（令和3年5月1日現在）

出身地		修士 1年	修士 2年	博士後期 1年	博士後期 2年	博士後期 3年	合計
山形県内	村山	0	0	1	0	1	2
	最上	0	0	0	0	0	0
	置賜	0	0	0	0	0	0
	庄内	5	2	0	0	0	7
	小計	5	2	1	0	1	9
山形県外	秋田	0	1	0	0	0	1
	新潟	0	1	0	0	0	1
	小計	0	2	0	0	0	2
国外	スリランカ	0	0	0	0	2	2
	小計	0	0	0	0	2	2
合計		5	4	1	0	3	13

ハ 退学・休学の状況（令和2年度）

学 年	修士課程	博士後期課程	合計
退学者（※）	2	1	3
除籍者	0	0	0
休学者（春学期）	0	0	0
休学者（秋学期）	1	0	1

※ 大学院学則第11条による在学年限満了者を含む

(2) 公益学部履修科目

□カリキュラム(2020・2019年度入学生)

大区分	中区分	小区分	1年次		2年次		3年次		4年次		種別	必要単位	備考(卒業要件等)		
			第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター					
基礎教育科目 【16】	スタンダード導入科目【5】		●基礎演習a ●基礎演習b ●現代公益論Ⅰ,Ⅱ ●山形地域論								必修	8			
	教養科目【36】	I群	哲学 倫理学 文学概論 心理学 日本史a 日本史b 西洋史a 西洋史b 人文地理学a 文化人類学 英国庭園文化論 世界地誌										選択	24以上	・各群から4単位以上修得
		II群	経済学 法学 政治学 社会学 社会福祉学a 社会福祉学b ジェンダー論 環境社会学 教育学 生涯学習概論 特別支援教育												
		III群	数学a,b 実用数学a,b 物理学 天文学a,b 統計学a,b 医学一般 健康科学 自然地理学a 自然地理学b												
リテラシー科目【28】	外国語科目		○英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ/EAPⅠ・Ⅱ・Ⅲ/中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	○英語Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ/EAPⅣ・Ⅴ・Ⅵ/中国語Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	○英語Ⅶ/EAPⅦ/中国語Ⅶ・Ⅷ	○英語Ⅷ/EAPⅧ					選択必修	8以上	・同一言語8単位必修		
	情報科目		●情報リテラシーⅠ	●情報リテラシーⅡ	●基礎プログラミングⅠ	●基礎プログラミングⅡ					必修	8			
専門教育科目【17】	地域経営系【7】	系共通科目	○基礎簿記Ⅰ ○基礎簿記Ⅱ ○経営学基礎 ○地域福祉論a ○雇用政策論 ○ミクロ経済学 ○マクロ経済学										選択	58以上(発展教育科目と合算して)	<ul style="list-style-type: none"> ・所属系から35単位以上修得 ・所属系の系共通科目及び発展教育科目の特別プログラム基礎科目(2020年度は休講)から合計6単位以上修得 ・国際教養コースに所属する場合は、選択した語学の語学科目はすべて必修(■英語、▲中国語)
		経営コース	応用統計学 経済史 経営管理論 経営工学 研究開発論 マーケティング論 福祉経営論 環境マネジメント論a,b 会計学 管理会計 経済学特論a 経済学特論b 金融論 産業組織論 経済学史 リサイクルビジネス論a,b 経営戦略論 人的資源管理論 企業法務 企業財務分析 非営利組織会計 企業組織の心理学 ゲーム理論												
		政策コース	公共経営論 行政学 地方自治論 行政法 地方自治法 政策入門 国際海洋法 公共系科目演習a,b 社会政策a,b 社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ 公的年金論 福祉行政と福祉計画Ⅰ,Ⅱ 民法Ⅰ 民法Ⅱ 憲法a,b 地方財政論 国際法 国際関係の法と経済												
		地域福祉コース	障害者福祉論 公的扶助論 医療福祉論 権利擁護と成年後見 ソーシャルワーク総論a ソーシャルワーク総論b 地域福祉論b 相談援助の理論と方法a 相談援助の理論と方法b 相談援助の理論と方法c 相談援助の理論と方法d 高齢者福祉論 介護福祉論 児童福祉論 司法福祉論 精神保健学												
	交流文化系【10】	系共通科目	○日本文化論 ○観光・まちづくり概論Ⅰ,Ⅱ ○世界経済事情 ○情報発信・ファシリテーションの技法 ○サブカルチャー論a,b ○社会調査論a,b ○ヒューマンインタフェース ○インターネットと社会 ○マルチメディア論 ○セキュリティ論 ○データサイエンス入門a,b										選択	58以上(発展教育科目と合算して)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際教養コース語学科目他コース学生の履修は以下の6科目に限る 英語科目: Advanced English Communication, TOEIC(中級)、TOEIC(上級) 中国語科目: 中国語会話、中国語検定対策Ⅰ、ビジネス中国語
		国際教養コース	国際関係論 国際協力論 国際ビジネス論 アジア経済論 中国経済論 中国文化論Ⅰ,Ⅱ 比較文化論Ⅰ,Ⅱ 多文化共生論 アメリカ事情 西洋文学史 International Economics 海外インターンシップ [語学科目] ■Advanced English Communication ■English PresentationⅠ ■English PresentationⅡ ■Intensive ReadingⅠ ■Intensive ReadingⅡ ■Academic Writing ■TOEIC(中級) ■TOEIC(上級) ■Intensive TOEIC ▲中国語会話(初級) ▲中国語会話(中級) ▲中国語中級講義Ⅰ ▲中国語中級講義Ⅱ ▲中国語リスニング ▲中国語検定対策Ⅰ ▲中国語検定対策Ⅱ ▲中国語上級講義 ▲中国語作文												
		観光まちづくりコース	観光産業論a,b 観光政策論Ⅰ,Ⅱ 地域・観光資源論 国際観光論a,b 余暇と観光の社会学 民俗学と観光Ⅰ,Ⅱ グリーンツーリズム論 第六次産業論 自然環境の保全と共生 風景のデザインa,b 中心市街地の再生 中山間・離島地域論 NPO・NGO論 社会起業家論Ⅰ,Ⅱ 観光・まちづくり演習a 観光・まちづくり演習b 人文地理学b 日本地誌												
		メディア情報コース	ゲームデザインa,b 画像情報処理 社会情報処理 数値情報処理a,b 情報デザイン論a,b コンピュータシステム論 システム開発技術論 企業活動と情報システム 応用プログラミング データ構造とアルゴリズム 科学メディア論a,b インターネット論 インターネット演習 情報処理特講(応用数学a) 情報処理特講(応用数学b) 情報処理特講(応用数学c) 情報処理特講(応用数学d) 情報処理特講(情報システムa) 情報処理特講(情報システムb) 情報処理特講(情報システムc)												
	一般						●専門演習Ⅰ				●専門演習Ⅱ	必修	8		
	専門演習【6】	留学					○専門演習(留学)Ⅰa	○専門演習(留学)Ⅰb	○専門演習(留学)Ⅰc		●専門演習(留学)Ⅱ	必修	2	・選択必修科目の必要単位数は留学期間に応じて定める	
発展教育科目【24】	特別プログラム【13】	特別プログラム応用科目											選択	5門8教以上育科目(専門合算)を専	<ul style="list-style-type: none"> ・実践外国語 長期留学中の外国語に関わる学修時間に応じて単位認定 ・国際教養コース所属の場合、「短期語学留学」又は「実践外国語」より選択必修
		社会福祉士養成課程	相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習指導Ⅳ 相談援助実習Ⅰ 相談援助実習Ⅱ												
		特別プログラム応用科目	特別プログラムa(テーマ) 特別プログラムb(テーマ)												
	外国語発展科目【11】	ロシア語 日本語	ロシア語1 ロシア語2 ロシア語3 ロシア語4 日本語演習a 日本語演習b 日本語演習c 日本事情												
	留学外国語		短期語学留学1 短期語学留学2												
人材育成8単位数科目	キャリア科目【9】	基本科目	●キャリア入門a,b		●キャリアと人生a,b		就職セミナー					必修/選択	10以上	<ul style="list-style-type: none"> ・応用演習科目から4単位以上修得 設置科目数 計293科目 修得単位数 計124単位以上 	
	発展科目			文章表現法		トップセミナーa,b	時事問題特講								
	応用演習科目【9】			○インターンシップ1 インターンシップ2 インターンシップ3 インターンシップ4											
					○7月17日型応用演習1 7月17日型応用演習2 ○競争型課題解決演習1 競争型課題解決演習2 ○課題解決実践演習										
	リメディアル科目【4】		●国語基礎1,2 ●数学基礎1,2								卒業単位外		・修得が義務		

●必修科目 ○選択必修科目

合計 124

(3) 公益学研究科履修科目

① 修士課程

科目区分	研究領域 および 個別科目名			
基礎科目	公益学総論			
方法論科目	論文作成法 統計学 社会調査論 共創の技法 情報処理論 文化交渉論 国際ビジネスコミュニケーション論			
専門科目	<公共経営研究領域>	<国際ビジネス研究領域>	<地域共創・ソーシャルワーク研究領域>	<情報科学研究領域>
	公共経営研究 1 (理論経済学)	国際ビジネス研究 1	地域共創研究 1 (公共性の社会学)	情報科学研究 1 (計算理論)
	公共経営研究 2 (行政法)	国際ビジネス研究 2 (マーケティング論)	地域共創研究 2 (社会政策論)	情報科学研究 2 (情報システム)
	公共経営研究 3 (行政学)	国際ビジネス研究 3 (国際経済論)	地域共創研究 3 (多文化共生・人権論)	情報科学研究 3 (情報数理)
	公共経営研究 4 (財政学)	国際ビジネス研究 4 (金融市場論)	地域共創研究 4 (ソーシャルキャピタル論)	情報科学研究 4 (人間工学)
	公共経営研究 5 (公会計論)	国際ビジネス研究 5	地域共創研究 5 (地域デザイン論)	情報科学研究 5 (ソフトウェア論理学)
	公共経営研究 6 (NPM 論)	国際ビジネス研究 6 (国際人的資源管理論)	地域共創研究 6 (NPO・非営利組織論)	情報科学研究 6 (公益ソフトウェア論)
	公共経営研究 7 (公共政策論)	国際ビジネス研究 7	地域共創研究 7 (ソーシャルビジネス論)	情報科学研究 7 (応用統計)
	公共経営研究 8 (自治体政策 法務論)	国際ビジネス研究 8 (コーポレート ファイナンス論)	地域共創研究 8 (合意形成・コーディネーション論)	情報科学研究 8 (情報セキュリティ)
	公共経営研究 9 (社会保障論)	国際ビジネス研究 9 (アジア地域経済論)	地域共創研究 9 (スクール(学校) ソーシャルワーク論)	情報科学研究 9
	公共経営研究 10 (海外行政研究)	国際ビジネス研究 10 国際ビジネス研究 11 (国際ビジネス論)	地域共創研究 10	情報科学研究 10 (プログラミング概論)
発展科目	現代政策分析	海外インターンシップ	スクール(学校)ソーシャルワーク演習* スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導* スクール(学校)ソーシャルワーク実習*	
	特別セミナーa	特別セミナーb	特別セミナーc	特別セミナーd
プロジェクト科目	プロジェクト a (ランドスケープ遺産として庄内平野を考える) プロジェクト b (庄内地方における内発的地域づくりー自然環境の保全と地域コミュニティの再構築) プロジェクト c プロジェクト d (地域固有ポイントマッピングシステムおよび管理フローの開発)			
自由科目	教育学* 教育行政* 生徒指導論* 進路指導論* 教育心理学* 教育相談の理論と方法* 精神保健学* 児童福祉論*			
演習科目	演習 I 演習 II 修士論文指導 I 修士論文指導 II			

② 博士後期課程

科目区分	個別科目名
公益学研究 特殊講義	公益学研究特殊講義 a (Advanced Academic Reading) 公益学研究特殊講義 b (地域活性化) 公益学研究特殊講義 c (森林の歴史と共生) 公益学研究特殊講義 d 公益学研究特殊講義 e (自治体マネジメント) 公益学研究特殊講義 f (Financial markets and the global economy)
研究指導科目	研究指導 I 研究指導 II 研究指導 III
	博士論文指導 I 博士論文指導 II 博士論文指導 III

(4) インターンシップの実施状況

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、現地派遣を行わない「課題挑戦型」に振り替え、チームで課題解決に取り組んだ。

NO	業種	課題提示機関	課題数	チーム数	実習生 人数
1	官公庁	山形県庄内総合支庁	5	13	56
2		酒田市役所	8	11	55
3		酒田地区広域行政組合消防本部	2	5	23
4	団体	公益財団法人出羽庄内国際交流財団	3	5	18
5		鶴岡市商工会議所	1	2	10
6		特定非営利活動法人ぼらんたす	1	1	4
7		鶴岡市小堅地区自治会	1	5	24
8	卸・小売	トヨタカローラ山形株式会社	1	2	8
9	不動産・建設	株式会社東洋開発	1	1	5
10		株式会社ブルー	2	2	10
11	福祉	医療法人社団みつわ会	2	2	8
12	サービス	株式会社プレステージ・インターナショナル	4	5	25
13		イデアルファロー株式会社	1	1	5
14		株式会社近畿日本ツーリスト酒田営業所	1	1	5
15		株式会社ニゴロデザイン・松山観光バス株式会社	1	1	5
合計			34	57	261

(5) オフィスアワーの実施状況

① 公益学部

イ 令和2年度秋学期 オフィスアワー日程

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学生の共同研究室への立ち入りを禁止していた。そのため、春学期はオフィスアワーを実施せず、状況が落ち着いた秋学期からの実施とした。

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室
1時限			斉藤 徹史	I-3			バンディング	D-2		
2時限	西村まどか	B-4	温井 亨 渡辺 暁雄 武田真理子	G-3 H-1 E-2	松田 憲	I-4			呉 尚浩	A-2
昼休み										
3時限	鎌田 剛 三浦 彰人 呉 衛峰 小野 英一	E-4 C-5 F-2 B-2	白旗希実子 フェック 渡辺 伸子 スルトノフ 松尾慎太郎	F-5 G-4 G-5 B-1 C-4	玉井 雅隆 小野 敦	H-2 地域共創 センター	日比 眞一 遠山 茂樹	A-1 E-5	伊藤真知子	F-3
4時限	山本 裕樹 澤邊みさ子 阿部 公一 渋谷 周二	I-5 A-4 H-5 D-1	古山 隆 三木 潤一 門松 秀樹 佐藤 昭洋 灰谷 和代 小関 久恵	E-1 学部長室 H-4 A-3 E-3 H-3			神田 直弥 倉持 一 唐 栄 松山 薫 樋口 恵佳	F-4 D-3 C-2 C-3 I-2		
5時限	広瀬 雄二	B-3								

② 公益学研究科

イ 春学期

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度春学期については対面でのオフィスアワーの時間に代え、メールアドレスに連絡のうえ、必要に応じてオンライン（Zoom）にて相談を受付という形でオフィスアワーを設けた。

職位	氏名	春学期担当科目
学長 教授	神田 直弥	情報科学研究 4（人間工学）
学部長 教授	三木 潤一	公共経営研究 1（理論経済学） 演習Ⅱ
研究科長 教授	武田 真理子	地域共創研究 2（社会政策論） スクール（学校）ソーシャルワーク演習 スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導 スクール（学校）ソーシャルワーク実習 演習Ⅰ 演習Ⅱ 修士論文指導Ⅰ

職位	氏名	春学期担当科目
教授	伊藤 眞知子	地域共創研究 1 (公共性の社会学) 演習 II 研究指導 III 博士論文指導 I
教授	温井 亨	演習 I
教授	澤邊 みさ子	論文作成法 演習 II
教授	松田 憲	論文作成法
教授	ジハン シャザダ ナイヤール	国際ビジネス研究 6 (国際人的資源管理論) 研究指導 II
教授	小野 英一	公共経営研究 6 (NPM 論)
教授	スルトノフ ミルゾサイド	国際ビジネス研究 4 (金融市場論) 国際ビジネス研究 6 (アジア地域経済論) 演習 II
准教授	広瀬 雄二	情報処理論
准教授	松山 薫	論文作成法
准教授	斉藤 徹史	公共経営研究 8 (自治体政策法務論)
准教授	渋谷 周二	日本語演習 (上級)
准教授	倉持 一	国際ビジネス研究 2 (マーケティング論) 演習 II
准教授	山本 裕樹	統計学
准教授	白旗 希実子	論文作成法
非常勤講師	酒井 計史	社会調査論
非常勤講師	松枝 法道	公共経営研究 7 (公共政策論)
非常勤講師	和田 明子	公共経営研究 10 (海外行政研究)
非常勤講師	岡本 三彦	公共経営研究 10 (海外行政研究)
非常勤講師	馬場 健	公共経営研究 10 (海外行政研究)
非常勤講師	滝口 克典	地域共創研究 3 (多文化共生・人権論)
非常勤講師	青木 孝弘	地域共創研究 6 (NPO・非営利組織論)

□ 秋学期

令和2年度秋学期については、対面でのオフィスアワーを再開し、いずれの教員も担当授業終了後10分間とした。

職位	氏名	担当科目
研究科長 教授	武田 真理子	公益学総論 スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導 スクール（学校）ソーシャルワーク実習 演習Ⅰ・Ⅱ
教授	伊藤 真知子	公益学総論 演習Ⅱ 研究指導Ⅲ 博士論文指導Ⅰ
教授	遠山 茂樹	公益学研究特殊講義 c
教授	温井 亨	演習Ⅰ
教授	澤邊 みさ子	演習Ⅱ
教授	阿部 公一	公共経営研究9（社会保障論）
教授	呉 衛峰	文化交渉論
教授	三木 潤一	演習Ⅱ
教授	ジハン シャザダ ナイヤール	国際ビジネス研究8（コーポレートファイナンス論） 国際ビジネス研究11（国際ビジネス論） 公益学研究特殊講義 a 研究指導Ⅱ
教授	小野 英一	公益学総論
教授	スルトノフ ミルゾサイド	国際ビジネス研究3（国際経済論） 演習Ⅱ
准教授	広瀬 雄二	情報科学研究6（公益ソフトウェア論） 情報科学研究10（プログラミング概論）
准教授	渋谷 周二	日本語演習（上級）
准教授	倉持 一	国際ビジネス研究10（経営戦略論） 演習Ⅱ
准教授	山本 裕樹	情報科学研究7（応用統計）
准教授	玉井 雅隆	公益学総論
非常勤講師	酒井 章	国際ビジネスコミュニケーション論
非常勤講師	水田 健輔	公共経営研究5（公会計論）
非常勤講師	薄葉 祐子	国際ビジネス研究1（組織行動論）
非常勤講師	小地沢 将之	地域共創研究4（ソーシャルキャピタル論）
非常勤講師	高谷 時彦	地域共創研究5（地域デザイン論）
非常勤講師	青木 孝弘	地域共創研究7（ソーシャルビジネス論）
非常勤講師	牧野 晶哲	地域共創研究9（スクール（学校）ソーシャルワーク論）

(6) 研究業績

氏名		神田直弥				
職位・系・コース		教授・交流文化系・メディア情報コース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順に 本人も含め記入)	開催 形態
学協会誌等						
査読有り学術論文等						
1	人間工学誌への満足度・投稿意欲・投稿推奨度にはどのような要因が関与するか?	人間工学	57(1), 11-23	2021	松木太郎、近井学、村木里志、神田直弥、齋藤誠二、中川千鶴、前田享史、牧口実、吉川悦子、榎原毅	/
紀要等						
1	交差車両のライト点灯が無信号交差点への進入行動におよぼす影響	東北公益文科大学研究論集	39, 3-21	2021	神田直弥	/
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	メタ認知に着目した中学生への交通安全教育の実践と効果評価	日本交通心理学会2020年度福岡大会発表論文集	Vol. 85, 31-34	2020	○神田直弥・小川和久・奥山祐輔・平田大輔・名古屋武一	
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
<ul style="list-style-type: none"> ・日本交通心理学会 会員 ・日本人間工学会 会員 ・日本心理学会 会員 ・日本プラントヒューマンファクター学会 会員 ・Human Factors and Ergonomics Society Full Member ・日本交通科学学会 会員 ・航空運航システム研究会 会員 						
②各種学会における活動状況						
日本交通心理学会編集委員(平成26年~) 日本交通心理学会運営委員(平成29年~) 日本人間工学会編集委員(平成30年~)						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有	種別: 不採択		円		
		種別:		円		
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況)					
	高齢ドライバーの免許返納と公共交通利用促進に関する研究(鳥海自動車学園との共同研究) 中学生の自転車利用時における事故防止に係る交通安全教育手法の開発(国際交通安全学会プロジェクト研究)					

氏名	三木 潤一					
職位・系・コース	教授・地域経営系・経営コース					
3-1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦年 (元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
学協会誌等						
査読有り学術論文等						
1	「地方公共サービスにおける 人員・車両・施設等の最適 資源配置問題—救急・消 防に関する検討—」	『CIPFA Japan ジャーナ ル』(英国勅許公共財務会 計協会日本支部)	第5号	2021年(令和3年) 3月(発行予定)	三木潤一・川崎雄二郎・ 萩原茂樹	
紀要等						
1	「令和2年度酒田市観光に 関する調査研究」	調査研究業務受託(酒田 市)報告書	※2020年2月時 点で未定	2021年3月(令和3 年)(予定)	三木潤一・小嶋健太・川 崎雄二郎	
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	「令和元年度酒田市観光に 関する調査研究」	令和元年度酒田市観光に 関する調査研究報告会(酒田 市役所) 調査研究内容報告		2020年(令和2年) 5月	三木潤一・小嶋健太・川 崎雄二郎	対面
2	「動的モデルによる救急隊 配置の最適化手法—山形県 酒田地区におけるケース スタディ」	日本応用数学会 第17回 研究部会連合発表会	セッション名: 数理政治学	2021年3月(令和3 年)(発表予定)	川崎雄二郎・萩原茂樹・ 三木潤一	オンラ イン
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本財政学会 日本地方財政学会 廃棄物資源循環学会 日本経済学会						
②各種学会における活動状況						
東北公益文科大学・関西学院大学・関西大学・京都先端科学大学の教員による2020年度地域活性化の経済分析ワークショップの主催は新型コロナウイルス感染症のため中止(例年9月に東北公益文科大学で開催)						
3. 研究資金獲得状況						
科研費 関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有	種別: 令和3年度(2021年度)基盤研究 (C)(一般)に申請中		円		
受託研 究関係	件数	契約先名		契約金額		
	1件	酒田市		400,000円		
民間機 関等共 同研究	件数	契約先名		契約金額		
	1件	株式会社丸高		605,000円		
その他 外部 資金	件数	契約先名		契約金額		
	1件	関西学院大学産業研究所		81,000円		
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況) 調査研究業務受託(酒田市)「令和2年度酒田市観光に関する調査研究」に研究代表者として取り組み、令和3年度も継続の予定である。 新たに、産学連携で株式会社丸高と共同研究「酒田市におけるコンパクトシティ化の検討」を開始し、令和3年度の研究成果を期す。					

氏名	武田 真理子				
職位・系・コース	教授 地域経営系 地域福祉コース				
1. 研究発表					
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順に 本人も含め記入)
査読無し学術論文等					
1	「ニュージーランドのCOVID-19対策から学べること」	日本ニュージーランド学会誌	第27巻 pp. 1-3	2020年11月20日	武田真理子
紀要等					
1	「ニュージーランドにおけるCOVID-19対策と社会保障制度に関する考察」	東北公益文科大学総合研究論集	第38号 pp. 37-54	2020年7月30日	武田真理子
2	「東北公益文科大学における『大学まちづくり』の推進」	ほくとう総研情報誌NETT	No. 110 pp. 4-7	2020年10月1日	武田真理子
口頭発表等(招待講演・学会発表等)					
1	「ニュージーランドの社会保障と老齢年金制度」	日本弁護士連合会 貧困問題対策本部における勉強会		2020年6月11日	武田真理子
2	「多文化共生社会・ニュージーランドにおけるCOVID-19対策」	公正な税制を求める市民連絡会「コロナ危機から考える」連続企画第5回		2020年7月19日	武田真理子
3	「ニュージーランド・カンタベリ地震の復興過程と住居の保障」	科研費挑戦的研究(萌芽) 首都直下地震等大規模災害のセーフティネットとしての準公営住宅の国際比較研究・災害時社会保障と住宅政策研究会		2020年2月15日	武田真理子
4	「<小さな大国>ニュージーランドから私たちが学べること」	日本パシフィック地域研究委員会講演会		2020年3月27日	武田真理子
2. 学会活動に関する業績					
①所属学会等(必須)					
日本ニュージーランド学会、社会政策学会、日本社会福祉学会、日本公益学会					
②各種学会における活動状況					
日本ニュージーランド学会においては副会長としてコロナ禍の学会運営の検討及び研究会の開催に貢献した。日本公益学会は来年度、本学で開催される設立20周年記念大会の検討を行う分科会に参加をし、他会員とともに準備に取り組む。					
3. 研究資金獲得状況					
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額	
	有 無 (有) 無	種別: 基盤研究C 種別:		390,000 円 円	
受託事業関係	件数	契約先名		契約金額	
	2 件	地域共創コーディネーター養成プログラム構築事業 舟形町住民主体の地域づくり事業コーディネーター業務		1,000,000 円 738,000 円	
その他外部資金	件数	契約先名		契約金額	
	1 件	東京オリンピック・パラリンピック酒田市ホストタウン推進協議会会長(酒田市長)「ニュージーランド連続講座業務委託」		108,000 円	
4. その他					
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況) 酒田市オリンピック・パラリンピック・ホストタウン推進協議会への参画、酒田市民向けの「Get to Know New Zealand」連続講座の第16回から第20回の企画・開催・運営及び講師など、ニュージーランド研究所として酒田市政及び酒田市民のニュージーランドとの交流と国際化の推進に貢献をした。 また、(3)の「地域共創コーディネーター養成プログラム」の評価及び地域人材育成の方法に関する研究については、同プログラム運営委員会の協力を得て、これまでの6年間の実績の記録作成、評価作業に着手中であり、来年度の研究論文としての発表を準備中である。舟形町受託事業も最終年度の報告書を3月に発行予定であり、その中でも地域共創コーディネーターによるファンリテーションとコーディネーションの成果と事業評価に取り組んだ。				

氏名		温井 亨				
職位・系・コース		教授・観光・まちづくりコース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
学協会誌等						
査読無し学術論文等						
1	風景とその認識の枠組み ー近代からはずれるとい うことー・温井亨	『風景計画研究』風景計 画推進委員会、日本造園 学会	Vol. 5掲載予 定、8ページ	2021(令和3)年	温井 亨	
2	環境と地域のためのアグ リツーリズムー本来の 食、風景、農村文化を守 るためにー・温井亨	『都市計画347号』、日 本都市計画学会	Vol. 69, No. 6, pp. 58-63	2020(令和2)年	温井 亨	
3	東北の町家の類型化と都 市建築としての評価・温 井亨	都市史学会『都市史研 究』山川出版社	8号掲載予定、1 ページ	2021(令和3)年	温井 亨	
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	風景とその認識の枠組み ー近代からはずれるとい うことー・温井亨	日本造園学会全国大会	ミニフォーラム	2020(令和2)年	温井 亨	オンライン
2	東北の町家の類型化と都 市建築としての評価・温 井亨	都市史学会研究大会		2020(令和2)年	温井 亨	オンライン
3	中心市街地のまちづくり ー都市の文化・居住・人 間のための街路ー	鶴岡市東田川文化記念館	地域連携講座	2020(令和2)年	温井 亨	対面
4	ランドスケープ遺産イン ベントリーをつくるー保 全すべき風景とは何か、 どう考えるのかー	宮城県美術館	「景をめぐっ て」第3回講座	2020(令和2)年	温井 亨	対面
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本造園学会、日本建築学会、日本都市計画学会、和食文化学会、都市史学会						
②各種学会における活動状況						
日本造園学会：ランドスケープ遺産インベントリー作成委員、東北支部運営常任委員、研究発表論文集校閲委員(査読1件)、全国大会参加(5月兵庫オンライン、ミニフォーラムで発表)、東北支部運営委員会(メール会議2回、対面1回)、東北支部大会参加(9月八戸市) 日本都市計画学会：学会誌イタリア特集で農村観光を担当執筆 和食文化学会：理事。理事会参加2回(オンライン)。研究大会参加(オンライン)。 都市史学会：研究大会で発表。						
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況) 遊佐町漁村漁業調査：道の駅移転の基礎資料としての調査 酒田市中心市街：湊町さかた探検隊として商工会議所主催ぶら探酒田に協力。都市史研究と学会発表。 鶴岡市中心市街：東田川文化記念館講座で中心部まち歩きを企画実施 鶴岡市金峯山：名勝内の道路整備の現地調査と意見表明 鶴岡市松ヶ岡：史跡の整備事業の現地調査と意見表明 上山市登録有形文化財：現地確認と調書修正					

氏名	澤邊 みさ子					
職位・系・コース	教授・地域経営系・地域福祉コース					
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	⑥⑦の 開催 形態
⑦口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	「2020年度公益学会開 催に向けてのアイデア」	2020年度日本公益学会研 究大会		2021年1月30日	澤邊みさ子・小野英一	オンライン
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
社会政策学会、日本社会福祉学会、日本公益学会、日本ニュージーランド学会、日本職業リハビリテーション学会、 北ヨーロッパ学会						
②各種学会における活動状況						
日本ニュージーランド学会： 事務局長(2018年6月～) 日本公益学会： 理事(2012年4月～)						
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・酒田市宮野浦学区における防災マップ作成のためのフィールドワーク調査 (プロジェクト型応用演習(秋学期)) ・酒田・飽海地区のひきこもり者の支援のため、関係機関の情報を共有し、解決策を導き出すための関係機関 ネットワーク会議に参加(地域の組織・団体と協力して活動) 					

氏名	松田 憲					
職位・系・コース	教授・交流文化系・国際教養コース					
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本比較文化学会、大学英語教育学会、全国語学教育学会、外国語教育メディア学会 Teachers of English to Speakers of Other Languages International Association						
②各種学会における活動状況						
Zoomで開催された研究会等にできるだけ参加した。						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関 係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	種別：		円		
		種別：		円		

氏 名		阿部 公一				
職位・系・コース		教授・地域経営系・政策				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
著書(翻訳含む)及び辞書等						
1	『人生100年時代の 年金制度—歴史的考察と 改革への視座』 第7章「公的年金制度へ の共感を高める年金教育 の在り方—若年層と社会 を結ぶ役割を果たすため に」	法律文化社 ISBN9784589041203	A5版247頁 担当第7章 120~136頁	2021(令和3)年 1月発行	日本年金学会編 執筆者13名 阿部公一・他	
口頭発表等(招待講演・学会発表等 作品)						
1	年金教育用教材ポスター 「ようこそ年金ハウス へ」	第2回令和の年金広報コ ンテスト(厚生労働省主 催)ポスター部門		2020(令和2)年 12月1日 企業年金連合会 理事長賞受賞	阿部公一	
3-2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本年金学会、他						
②各種学会における活動状況						
寄稿依頼を受けて、日本年金学会創立40周年記念書籍『人生100年時代の年金制度—歴史的考察と改革への視座』に執筆した。 第5回ユース年金学会(2020年11月28日、オンライン開催)において、講評役を務めた。						
③学会賞等の受賞状況						
第2回令和の年金広報コンテスト(厚生労働省主催)ポスター部門において、年金教育用教材ポスター「ようこそ年金ハウスへ」が 企業年金連合会理事長賞を2020年12月1日に受賞した。						
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況) 国民年金に対する若者の保険料未納問題や無関心を全国的な地域共通の課題として捉え、学生と共に、 広報的媒体物を地域及び全国に向けて情報発信する活動を本年度においても継続して実施してきた。					

氏名		吳 衛峰				
職位・系・コース		教授・文化交流系・国際教養コース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
紀要等						
1	中国語圏における俳句の影響について——俳句の中国語訳を中心に(その二)	東北公益文科大学総合研究紀要第38号	(1)-(13)	2020年7月30日	吳衛峰	
2	中国語圏における俳句の影響について——俳句の中国語訳を中心に(その三)	東北公益文科大学総合研究紀要第38号	(19)-(38)	2021年1月31日	吳衛峰	
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	日本国山形県所蔵の漢籍調査について(招待講演)	漢籍合璧会議(山東師範大学)	オンライン参加、於山東師範大学	2020年12月19日、14:50-15:05	吳衛峰	オンライン
2	1990年代以降の中国語圏における俳句の受容	「中国語圏における俳句の受容と実践に関する比較文学的研究」(科研費・基盤研究C) オンライン国際シンポジウム 第1回 「中国語圏における俳句の受容」		2021年3月6日 15:40-16:10	吳衛峰	オンライン
3	日本の俳句について——歴史、現状、およびその国際的影響(招待講演)	山東師範大学外国語学部		2021年3月25日 16:45-18:15	吳衛峰	オンライン
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本比較文学会、国際比較文学会、東大比較文学会、東方学会、日本中国学会、国際俳句交流学会、中国日本文学研究会						
②各種学会における活動状況						
2020年9月より、日本比較文学会学会賞選考委員会執行委員に就任し、2020年度学会賞の選考推薦リストの作成に参加した。						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有・無	種別：基盤研究C		4,290,000 円		
		種別：		円		

氏 名		吳 尚 浩				
職位・系・コース		教授・交流文化系・観光・まちづくりコース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
学協会誌等						
査読有り学術論文等						
1	Eka Higuchi, Naohiro Go "Recent developments in the legislation of marine plastic litter in Japan"	Marine Policy	投稿中		Eka Higuchi, Naohiro Go	/
査読無し学術論文等						
1	吳尚浩「"しましま"交流の力 - 佐渡島・粟島・飛島における三島交流の成果と意義」	日本島嶼学会 2020 年次大会要旨集(招待、紙上大会)	pp. 5-6	2020. 12. 18	吳尚浩	/
紀要等						
1	「地域防災・減災ワークショップ-酒田市宮野浦地区の防災・避難のあり方を考える」→その他	公益大ニュース	No. 5、p. 9	2021. 1	吳尚浩(執筆者名なし)	/
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	吳尚浩「"しましま"交流の力 - 佐渡島・粟島・飛島における三島交流の成果と意義」	日本島嶼学会 2020 年次大会(招待、紙上大会)		2020. 12. 18	吳尚浩	1
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本環境社会学会 日本公益学会 日本海岸林学会 日本沿岸域学会 地区防災計画学会 庄内・社会基盤技術フォーラム(土木学会認定CPDプログラム) 東北ジオパーク学術研究者会議						
②各種学会における活動状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・庄内社会基盤技術フォーラム・運営委員 ・日本島嶼学会 2020 年次大会(招待、紙上、2020. 12. 18)にて報告 ・第6回東北ジオパーク学術研究者会議(2020. 7. 4、オンライン開催・参加) ・日本海岸林学会(2020. 11. 7、米子大会、オンライン開催・参加) ・地区防災計画学会第7回大会(2021. 3. 6、オンライン開催・参加予定) 						
3. 研究資金獲得状況						
その他外部資金	件数	契約先名		契約金額		
	2 件	公益財団法人マエタテクノロジーリサーチファンド(山形大、公益大、山形県森林研究研修センター、(株)朝日航洋の共同研究/研究代表者は山形大学農学部・菊池俊一准教授)「航空レーザー測量およびGISを活用した海岸林保全システムの構築」		1,000,000 円		
		酒田市「地域IT人材育成委託事業」(地域共創センター受託、防災・環境部会として「地域防災人材育成プログラム」を実施。吳は、部会長) →詳細は、3. 研究業績の「振り返り」欄、および 5. 社会貢献活動の「その他」の欄に記載。		防災分野の今年度予算執行額 46,504 円		
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況) 離島における内発的な地域づくり(離島振興、防災、ジオパーク推進、三島交流など)、海洋ごみ問題、海岸林保全研究、酒田市宮野浦地区の防災・減災への取り組みなど、研究調査活動多数(教育業績、研究業績、社会貢献活動、国際関連業務の各項目に詳細に記載)					

氏名	古山 隆					
職位・系・コース	教授・地域経営系・経営コース					
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	自動車リサイクル法施行 後のASRリサイクル施設 の変遷	自動車技術会リサイクル 技術部門委員会		2021年1月25日		
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
自動車技術会リサイクル技術部門委員会 資源・素材学会 環境資源工学会 鉱業史研究会						
②各種学会における活動状況						
自動車技術会リサイクル技術部門委員会 幹事						
3-3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有	種別: 基盤研究B		0円		
		種別:		円		

氏名	広瀬雄二					
職位・系・コース	准教授・交流文化系・メディア情報コース					
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
紀要等						
1	体験獲得型地域文化デジタルアーカイブシステムの構築	東北公益文科大学紀要	2021年3月号	2021-03-31	広瀬雄二、山名流聖、 吉野凌太、櫻井風雅	
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
情報処理学会 デジタルアーカイブ学会						
3. 研究資金獲得状況						
受託研究関係	件数	契約先名		契約金額		
	1件	酒田市情報企画課		300000円		
				円		

氏 名		JEHAN, Shahzadah Nayyar			
職位・系・コース		教授			
3-1. 研究発表					
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順に 本人も含め記入)
学協会誌等					
査読有り学術論文等					
1	Efficiency of Public Services and Digital Governanc in Sri Lanka	Economies	Vol 8 (4)	12/2020	Alahakoon M.I.U. Jehan, Shahzadah Nayyar
2	An Anlysis of Implementation of Business Process Reengineering in Public Services	Journal of Open Innovation, Technology, Market and Complexity	Vol 6 (4)☒	12/2020	Elapatha V.W. Jehan, Shahzadah Nayyar
3	Systematic innovation based BPR regime—a factors analysis	Applied System Innovation	Vol 3 (4)	12/2020	Shahzadah Nayyar Jehan, Vishakha Wijeratne Elapatha
4	Digitalization of public services—an input output logit analysis	Applied System Innovation	Vol. 3 (4)	12/2020	Shahzadah Nayyar Jehan, Mudalige Uthpala Indeelinie Alahakoon
国際会議発表論文等					
1	Due Diligence & Risk Alleviation for Innovative Venture Investments -A Shariah Finance Model	Proceedings of Global Conference on Advances in Business and Social Sciences (Online), Tsuruoka, Japan	GCABSS (RCNBS)	December 5-6, 2020	Shahzadah Nayyar JEHAN
2	A Survey of Public Service Delivery and Digital Governance in Sri Lanka	Proceedings of Global Conference on Advances In Business and Social Sciences (ONLINE) Tsuruoka, JAPAN	GCABSS (RCNBS)	December 5-6, 2020	Uthpala Alahakoon Shahzadah Nayyar JEHAN
3	A Roundup of Business Process Reengineering in Public Services of Sri Lanka	Proceedings of Global Conference on Advances In Business and Social Sciences (ONLINE) Tsuruoka, JAPAN	GCABSS (RCNBS)	December 5-6, 2020	Vishakha Wijeratne Elapatha, Shahzadah Nayyar JEHAN
4	Value Creation via Nonlinear Learning, Neural Networks and Entropy Reversal Creating Blue Oceans Through Nonlinear Pedagogies	Proceedings of Global Conference on Advances in Education and Research 2020, Tsuruoka, Japan	GCAER (RCNBS)	November 21-22, 2020	Shahzadah Nayyar JEHAN
口頭発表等(招待講演・学会発表等)					
1	Impact of Covid 19 on Business Models	USA, Lahore, Online Webinar	Online	9-May-20	Shahzadah Nayyar JEHAN
2	Due Diligence & Risk Alleviation for Innovative Venture Investments -A Shariah Finance Model	Global Conference on Advances in Business and Social Sciences (Online), Tsuruoka, Japan	GCABSS (RCNBS)	December 5-6, 2020	Shahzadah Nayyar JEHAN
3	A Survey of Public Service Delivery and Digital Governance in Sri Lanka	Global Conference on Advances In Business and Social Sciences (ONLINE) Tsuruoka, JAPAN	GCABSS (RCNBS)	December 5-6, 2020	Uthpala Alahakoon Shahzadah Nayyar JEHAN
4	A Roundup of Business Process Reengineering in Public Services of Sri Lanka	Global Conference on Advances In Business and Social Sciences (ONLINE) Tsuruoka, JAPAN	GCABSS (RCNBS)	December 5-6, 2020	Vishakha Wijeratne Elapatha, Shahzadah Nayyar JEHAN
5	Value Creation via Nonlinear Learning, Neural Networks and Entropy Reversal Creating Blue Oceans Through Nonlinear Pedagogies	Global Conference on Advances in Education and Research 2020, Tsuruoka, Japan	GCAER (RCNBS)	November 21-22, 2020	Shahzadah Nayyar JEHAN
2. 学会活動に関する業績					
①所属学会等(必須)					
IFRD, CKID, IEEE, IEER, AAA、日本経営システム学会、実践経営学会等					
②各種学会における活動状況					
Referee, Advisor, Member Etc.					
3. 研究資金獲得状況					
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額	
	○有・無	種別： 不採択		円	
		種別：		円	

氏名	小野 英一					
職位・系・コース	教授・地域経営系・政策コース					
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
学協会誌等						
査読無し学術論文等						
1	自治体におけるSDGsの取 り組みについて—北海道 下川町および石川県白山 市を事例として—	地域活性研究(地域活性 学会)	vol. 13 pp. 169-175	2020年 (令和2年)	小野英一	/
2	自治体における「食文 化」を活かした地域振興 の取り組み—山形県鶴岡 市の「食文化創造都市」 を事例として—	地域活性研究(地域活性 学会)	vol. 14 (3月に発行予 定)	2021年 (令和3年)	小野英一	/
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
自治体学会、地域活性学会、日本行政学会、日本公益学会、日本公共政策学会 日本地域政策学会、非営利法人研究学会、地方行政実務学会						
②各種学会における活動状況						
日本公益学会：理事 地方行政実務学会：理事 日本地域政策学会：編集委員会 日本地域政策学会：東北支部事務局次長 地域活性学会：東北支部役員						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関 係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	○有・無	種別：			円	
		種別：			円	

氏名		Sultonov Mirzosaid			
職位・系・コース		教授・交流文科系・国際教養コース			
1. 研究発表					
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合は 論文等に記載した順に 本人も含め記入)
学協会誌等					
査読有り学術論文等					
1	"The Impact of International Sanctions on Russian Financial Markets"	Economies, MDPI	vol. 8(4), 107, pp.1-13	Dec. 2020	Sultonov M.
2	"The Impacts of International Political and Economic Events on Japanese Financial Markets"	International Journal of Financial Studies, MDPI	vol. 8(3), 43, pp. 1-12	Sept. 2020	Sultonov M.
査読無し学術論文等					
1	"Effective Implementation of Content-Based Language Teaching in the Japanese Context"	Bulletin of Tohoku Koeki University	vol. 38, pp.1-5	2020	Bunting, T. and Sultonov M.
国際会議発表論文等					
1	"International News and Relationship Between Exchange Rate of Yen, TOPIX Index and Sectoral Stock Indices"	Global Conference on Advances in Business and Social Sciences, GCABSS	Tsuruoka, Japan	Dec. 2020	Sultonov M.
2	"The Impact of International Sanctions on Russian Financial Markets"	The 19th International Conference of the Japan Economic Policy Association	Hiroshima, Japan	Nov. 2020	Sultonov M.
3	"Application of Content-Based Language Teaching Methodology in International Liberal Arts Education"	Global Conference on Advances in Education and Research, GCAER	Tsuruoka, Japan	Nov. 2020	Sultonov M. (presenter), Bunting, T. and Arskaya, J.
4	"Content-Based Language Teaching in International Liberal Arts Education"	The Asian Conference on Education & International Development (ACEID2021)	Tokyo, Japan	Mar. 2021	Sultonov M. (presenter) and Bunting, T.
口頭発表等(招待講演・学会発表等)					
1	"Population Ageing and FDI Inflows in Japan: ARDL Approach to Cointegration Analysis"	The 19th International Conference of the Japan Economic Policy Association	Hiroshima, Japan	Nov. 2020	討論者: Sultonov M.; 発表者: MITRA R. and ABEDIN T.
2	"Could Exports Induce Firms to Have Higher Productivity? The Difference in Differences and Propensity Score Matching Analyses of the Firms in Six ASEAN Developing Countries"	The 19th International Conference of the Japan Economic Policy Association	Hiroshima, Japan	Nov. 2020	討論者: Sultonov M.; 発表者: JITSUTTHIPHAKORN U.
3	"COVID-19: 中央アジアより"	ウェビナー: COVID-19とユーラシア	立命館大学 国際地域研究所	Oct. 2020	Sultonov M.
2. 学会活動に関する業績					
①所属学会等(必須)					
比較経済体制学会(会員) Japan Economic Policy Association(会員) World Economic Association International(会員) International Conference of Japan Economic Policy Association (member of organizing committee) Global Conference on Advances in Business and Social Sciences (member of organizing committee) The 19th International Conference on Economics and Social Sciences (member of organizing committee) International Journal of Economic Policy Studies (member of editorial board) Journal of Social Indicators Research (referee) Journal Applied Economics (referee) Journal of Reviews on Global Economics (referee) Journal of Sustainability (referee) Journal of International Risk Management (referee).					
②各種学会における活動状況					
Organization committee member, session chair, presenter, discussant and referee works					
③学会賞等の受賞状況					
日本経済政策学会 学術賞(2020年5月)					
3. 研究資金獲得状況					
科研費関係	申請の有無		採択状況		採択金額
	有・無		種別: 基盤研究 C 種別:		780,000 円 円

氏名	渡辺 暁雄					
職位・系・コース	准教授・交流文化系・観光まちづくりコース					
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
紀要等						
1	伝統空間のデータ化と閲覧システムの有効性と課題：データ化手法・閲覧形態の違いにおける「思い出」想起の差異を通して	デジタルアーカイブ学会誌	4巻2号 pp.128-131	2020(令和2) 年4月25日	渡辺暁雄 三浦彰人 小関久恵	/
2	新型コロナ時代における地方商店街の現状—2020年度「酒田市商店街実態調査」から—	東北公益文科大学総合研究論集	第37号 pp.47-79	2021(令和3) 年3月(予定)	渡辺暁雄 水谷史男	/
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	伝統空間のデータ化と閲覧システムの有効性と課題：データ化手法・閲覧形態の違いにおける「思い出」想起の差異を通して	デジタルアーカイブ学会研究大会	第4回	4月25日(土)・26日(日)※新型コロナウイルス感染症拡大により中止。予稿集をもって発表扱い	渡辺暁雄 三浦彰人 小関久恵	
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本社会学会, デジタルアーカイブ学会, 日本生活学会, 社会文化学会, 日本公益学会						
②各種学会における活動状況						
大会へのオンライン参加						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有・無	種別:		円		
		種別:		円		
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況) ・鶴岡市加茂地区の地域振興に関する活動(加茂ランドデザイン推進事業)					

氏 名		日比 眞一				
職位・系・コース		准教授・地域経営系・地域福祉コース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
学協会誌等						
査読有り学術論文等						
1	学校現場がスクールソーシャルワーカーに期待すること	福祉図書研究	第19号(43-52)	2020(令和2) 年	日比眞一	
2	社会福祉士を保有するスクールソーシャルワーカーが示す専門性について	福祉図書研究に投稿中。 査読進行中。				
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本社会福祉学会、日本福祉教育・ボランティア学習学会、日本福祉図書文献学会、日本福祉学習支援学会、山形県社会福祉士会、山形県権利擁護センターぱあとなあ、山形県レクリエーション協会						
②各種学会における活動状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・日本福祉図書文献学会の全国大会で発表を準備する。コロナ禍で期日が未定。 ・日本福祉図書文献学会の学会誌に投稿。査読進行中。 ・日本福祉図書文献学会の東北ブロック理事へ就任した。 ・日本福祉学習支援学会の東北ブロック理事への就任依頼が内々にあった。 ・山形県社会福祉士会の庄内ブロック理事へ就任した。人脈の形成も進めたい。 ・認定社会福祉士の専門性を調査するために講座の受講を進めたい。実地で自らも学修者として参与観察に取り組みたい。 ・2021年度は日本社会福祉士会の全国大会が山形県で開催される。Zoomにて。口頭発表の準備を進めたい。 ・成年後見制度に関する社会福祉士の役割や専門性を調べたい。ぱあとなあに所属して情報を得ていく。 ・会に所属していないが、老人福祉施設協議会とのつながりを探したい。施設SWの調査の端緒を得たい。 						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有・無	種別:		円		
		種別:		円		
4. その他						
地域課題関係	<p>(地域課題解決のための研究・活動状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県社会福祉協議会監事役員 山形県社協の事業が適正な運営がなされているか、書類確認や職員の方との面接等を行う監査業務に従事する。また、新たな取り組み等について学識経験者として相談に応じている。 ・山形県社会福祉会理事 県士会の理事として社会福祉士実習の担当者に任ぜられた。社会福祉士実習について県内の課題を集約していきたい。何を取り組むべきか調査等を進めていく。 ・社会福祉法人光風会評議員 地域の中核施設である光風会グループの適正な運営に資する。高齢者、障がい者に関連する地域の課題に取り組む。 ・山形県権利擁護センターぱあとなあ 酒田市長申し立ての成年後見をぱあとなあを通して受任した。成年後見、そして未成年後見の専門職後見人へのニーズは高まっており、ぱあとなあ登録者だけでは充足しないこともある。今後の地域課題として取り組む必要がある。 ・山形県レクリエーション協会 山形県の介護施設等で実施されているレクリエーションについて実態を調べる。ADLが低下した施設入居者のQOLの維持・拡大をどのように思索するのか、実践から考察していく。 					

氏名	東江 日出郎					
職位・系・コース	准教授・交流文科系・国際教養					
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順に 本人も含め記入)	開催 形態
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	ドゥテルテ政権の フィリピン外交	国際東アジア共同体 学会		2020年 11月7日		対面
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本平和学会、東アジア共同体・沖縄(琉球)研究会、国際東アジア共同体学会						
②各種学会における活動状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア共同体・沖縄(琉球)研究会では、執行委員を務め、毎年、数回のシンポジウムを開催し、単なる学会としてではなく、市民に開かれた研究会を行い、学問とその実践を融合させ、市民にも学問的知見を理解してもらうよう活動した。また、この研究会の学会誌に査読論文「ドゥテルテ政権のフィリピン外交」を発表した。 ・国際東アジア共同体学会では、学会発表を行った。この発表に関しては、インターネットメディアのNet IB Newsでも紹介されている(https://www.data-max.co.jp/article/38814)。 						

氏名	西村まどか					
職位・系・コース	准教授・交流文化系・メディア情報コース					
1. 研究発表 なし						
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
IEEE, JPS, IPSJ						
②各種学会における活動状況						
会員						

氏名		齊藤 徹史				
職位・系・コース		准教授・地域経営系・政策コース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 (元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
著書(翻訳含む)及び辞書等						
1	日本財政法学会編 『地方財務判例 質疑応 答集』	ぎょうせい	118-133頁	2020年 (令和2年)	単著 (同書の1項目を執筆)	/
学協会誌等						
査読有り学術論文等						
1	齊藤徹史 「随意契約により得ない のに締結された随意契約 によって当該地方公共団 体に損害が発生していると 認められないなどとされ た事例」	『地方財務』 (ぎょうせい)	800号 171-186頁	2021年 (令和3年)	単著 (日本財政法学会監修)	/
査読無し学術論文等						
1	齊藤徹史 「公契約条例の理論と今 日の展開」	『経済調査研究レ ビュー』 (一般財団法人経済調査 会)	28号25-39頁	2021年 (令和3年) 3月発行予定	単著 (依頼)	/
紀要等						
1	齊藤徹史 「公共施設マネジメント をテーマとした法政策教 育の実践の試み」	『東北公益文科大学総合 研究論集』 (東北公益文科大学)	38号69-81頁	2020年 (令和2年)	単著	/
総説・解説等						
1	齊藤徹史 「入札契約制度の動向」	『アカデミア』 (市町村アカデミー)	136号38-43頁	2021年 (令和3年)	単著 (依頼)	/
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	齊藤徹史 「随意契約により得ない のに締結された随意契約 によって当該地方公共団 体に損害が発生していると 認められないなどとされ た事例」	日本財政法学会 財政法研究会		2020年 (令和2年)	単独	オンラ イン
2	齊藤徹史 「公契約条例について」	土木学会 公共工事の価 格決定構造の転換に関す る小委員会		2020年 (令和2年)	単独 (招待)	オンラ イン
3	齊藤徹史 「公契約条例の法的論 点」	公益財団法人地方自治総 合研究所 「格差是正と地方自治」 研究会		2020年 (令和2年)	単独	オンラ イン
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本公法学会・日本財政法学会・日本経済法学会・日本地域学会・日本高等教育学会・自治体学会・日本財政法学会財政法研究会・東北大学公法判例研究会・東北大学経済法研究会・公正取引委員会事務総局東北事務所 東北経済法研究会・電子情報通信学会 光輝会特別研究専門委員会						
②各種学会における活動状況						
電子情報通信学会 光輝会特別研究専門委員会委員						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有・無	種別： 基盤研究(c)	不採択 円			
		種別：	円			
受託研究関係	件数	契約先名		契約金額		
	1件	山形県建設業協会酒田支部		円		
				円		
民間機関等共同研究	件数	契約先名		契約金額		
	1件	飛鳥建設株式会社		円		
				円		
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内の地域課題の一つに、PPP(公民連携)に対応できる事業者の不足がある。上記民間企業との共同研究では、こうした状況を改善するためのアイデアを検討しており、後日提言を作成する。 ・公共施設マネジメントに関し、地域住民が関心をもつためのオリジナル・ゲームの作成を、酒田市と有志の学生とともに取り組んでいる。新型コロナウイルスの感染拡大が当地で進んだことから、現在は活動を中止しているが、状況改善後には再開する予定である。 					

氏名		灰谷 和代				
職位・系・コース		准教授・地域経営系・地域福祉コース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
<p>1</p> <p>保育者を対象とした子ども家庭アセスメント研修の効果－研修後のアンケート調査の結果から－</p> <p>東北公益文科大学総合研究論集</p> <p>38・P83-99</p> <p>2020年7月</p> <p>灰谷和代(単)</p>						
<p>2</p> <p>コロナ禍におけるソーシャルワーク実習の対応－オンライン実習プログラムの検討－</p> <p>東北公益文科大学総合研究論集</p> <p>39・P99-107</p> <p>2021年1月</p> <p>灰谷和代(単)</p>						
総説・解説等						
<p>1</p> <p>第6回研究みえ大会報告(日本保育ソーシャルワーク学会第6回研究大会報告)保育ソーシャルワーク学研究</p> <p>保育ソーシャルワーク研究(日本保育ソーシャルワーク学会)</p> <p>6・P3</p> <p>2020年12月</p> <p>灰谷和代(単)</p>						
<p>2</p> <p>今、地域に求められる保育ソーシャルワークを考える(日本保育ソーシャルワーク学会第6回研究大会公開シンポジウム報告)</p> <p>保育ソーシャルワーク研究(日本保育ソーシャルワーク学会)</p> <p>6・P5-6</p> <p>2020年12月</p> <p>灰谷和代、他6名(共)</p>						
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
<p>1</p> <p>オンライン活用によるソーシャルワーク実習プログラムの検討－新型コロナウイルス感染症の発生に伴う実習対応から－</p> <p>日本社会福祉学会第68回秋季大会(オンライン開催)</p> <p>https://www.jssw.jp/conf/68/pdf/E16-09.pdf</p> <p>2020年9月</p> <p>灰谷和代(単)</p>						
<p>2</p> <p>市町村の人口規模に応じた保育現場との連携モデルの検討－3つの市町村での取り組みから－</p> <p>日本子ども虐待防止学会第26回学術集いしかわ金沢大会(オンライン開催)</p> <p>第26回学術集いしかわ金沢大会要旨集P159</p> <p>2020年11月</p> <p>灰谷和代(単)</p>						
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本社会福祉学会、日本保育学会、日本子ども家庭福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、日本ソーシャルワーク学会、日本保健医療福祉連携教育学会						
②各種学会における活動状況						
日本保育ソーシャルワーク学会理事・紀要委員						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無		採択状況		採択金額	
	有・ <input checked="" type="radio"/> 無		種別：		円	
※2021年度2件(文科省・厚労省)申請中		種別：		円		
4. その他						
地域課題関係		(地域課題解決のための研究・活動状況)				
		現在、酒田市内の保育園と「保育現場内における児童虐待対応システム」を構築中				

氏名	鎌田 剛		
職位・系・コース	准教授・地域経営系・地域福祉コース		
1. 研究発表	なし		
3-2. 学会活動に関する業績	①所属学会等(必須)		
	日本医療マネジメント学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、農村計画学会		
3. 研究資金獲得状況			
科研費関係	申請の有無	採択状況	採択金額
	有・無	種別： 基盤研究 (C) 不採択 種別：	円 円
4. その他			
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況) 鶴岡市小堅地区におけるシェアハウスを中心とする地域活動に、ゼミ生等有志学生と共に取り組んだ。学生活動団体ブラクシスと連携し、同団体が採択を受けた「山形県令和2年度若者未来創造事業フロンティアプロジェクト業務委託」(120万円)において、酒田市日向地区と当地区における山村×漁村の交流事業に力をいれた。その結果、来年度の長期学外学修 (SDGs探究プログラム) へと接続できる本学学生の受け入れ基盤ができた。		

氏名	山本 裕樹					
職位・系・コース	准教授・メディア情報コース					
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合は論文等に記載した順に本人も含め記入)	開催形態
紀要等						
1	人生いろいろ, 望遠鏡もいろいろ-3-	富山県立大学紀要	30号, pp. 8-14	2020年 (令和2年)	戸田晃一、 Luiz A. FERREIRA、 山本裕樹	/
総説・解説等						
1	日食と神話と歴史	東北公益文科大学 図書館通信	No. 006, pp. 2-3	2020年 (令和2年)	山本裕樹	/
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	山形県立鶴岡南高校の観測 -食変光星の多色測光-	第10回インターネット望遠鏡プロジェクトシンポジウム		2020年 (令和2年)	山本裕樹	オンライン
2. 学会活動に関する業績	①所属学会等(必須)					
	日本物理学会					
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況	採択金額			
	有・無	種別： 基盤研究 (C) 種別： 基盤研究 (C)	693352 円 (分担) 150000 円			

氏 名		門松 秀樹				
職位・系・コース		准教授・地域経営系・政策コース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順に 本人も含め記入)	開催 形態
著書(翻訳含む)及び辞書等						
1	現代行政学の基礎知識	一藝社		2021年(令和3年)	堀江湛・桑原英明編	
紀要等						
1	設置当初の屯田兵による 北海道防衛に関する一考 察	東北公益文科大学総合研 究論集	第39号、pp.(1)- (18)	2021年(令和3年)	門松秀樹	
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本政治学会、日本法政学会、明治維新史学会、時代考証学会						
②各種学会における活動状況						
時代考証学会運営委員						
3-3. 研究資金獲得状況						
科研費関 係	申請の有無		採択状況		採択金額	
	有・ <input checked="" type="radio"/> 無		種別： 種別：		円 円	
民間機関 等共同研 究	件数		契約先名		契約金額	
	1 件		荘内日報社		55000 円 円	

氏 名		Edmund Fec				
職位・系・コース		講師・交流文科系・国際教養コース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順に 本人も含め記入)	開催 形態
紀要等						
1	An analysis of the Lingua Franca Core from the perspective of teaching pronunciation at Japanese universities by Edmund Fec	東北公益文科大学総合研 究論集	第40号(予定)	2021年3月発行予 定	Edmund Fec	
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	English Pronunciation - Why, What and How to Improve it	FORUM 21 (本学)		2020年12月18日	Edmund Fec	対面
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
全国語学教育学会 (JALT: The Japan Association for Language Teaching)						
②各種学会における活動状況						
I attended the Yamagata JALT online meetings in April 2020 and February 2021, and the 2020 JALT Conference which was held						
3-3. 研究資金獲得状況						
科研費関 係	申請の有無		採択状況		採択金額	
	有・ <input checked="" type="radio"/> 無		種別： 種別：		円 円	

氏名	玉井 雅隆					
職位・系・コース	准教授・交流文科系・国際教養コース					
3-1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
著書(翻訳含む)及び辞書等						
1	ナンジン・ドルジスレン、玉井雅隆、玉井良尚、宮脇昇(編)『コロナに挑む内陸国』	志学社		令和3(2021)年3月(予定)	共著	
2	玉井雅隆『欧州安全保障協力機構の総合的研究』	志学社		令和3(2021)年3月(予定)	単著	
学協会誌等						
査読有り学術論文等						
1	CSCEにおける「民主的平和」と「ウィーンの間」	広島平和研究	未定	令和3(2021)年3月(予定)	単著	
査読無し学術論文等						
1	Cold Border: Did the COVID-19 hit democracy and borders in Mongolia?	Journal of Policy Science	未定	令和3(2021)年3月(予定)	Authors: Noboru Miyawaki, Nanjin Dorjisirren, Masataka Tamai, Yohisnao Tamai, Takuto Yoshimura	
紀要等						
1	冷戦期CSCEプロセスにおけるソ連外交とマイノリティ問題	『東北公益文科大学総合論集』	第38号、55-68頁	令和2(2020)年7月	単著	
2	CSCEプロセスにおけるフィンランドの役割—北東アジア安全保障枠組における中立国の役割—	『東北公益文科大学総合論集』	第39号、23-41頁	令和3(2021)年1月	単著	
3	The OSCE, Neutral position and Mongolia: Can Mongolia play the role of Finland in northeast Asia?	『東北公益文科大学総合論集』	第40号、ページは未確定	令和3(2021)年3月(予定)	単著	
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	After COLONAの時代と海外留学	立命館大学「国際地域研究所 重点プロジェクト「中央アジア紛争と平和構築」		令和2(2020)年10月		
2	OSCEにおけるメディアとマイノリティ - 自由メディア代表、少数民族高等弁務官の活動に焦点を当てて -	グローバル・ガバナンス学会第12回研究大会		令和2(2020)年11月		
3	水素エネルギーと鉄道—省エネと鉄道—	CESNA研究会		令和2(2020)年12月		
4	国境を越えた「内政干渉?」—選挙監視とコロナ下のアメリカ大統領選挙—	立命館大学「with/without コロナ社会と国境開放・立命館大学地域情報研究所重点プロジェクトAFユニット1国境閉鎖」プロジェクト「COLD BORDER—COVID19はどう国境を越えたのか」		令和3(2021)年2月		
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
国際政治学会、国際法学会、ロシア東欧学会、グローバル・ガバナンス学会、日本公益学会、国連学会、ACUNS						
ISA						
②各種学会における活動状況						
グローバル・ガバナンス学会：理事、広報・インターネット担当						
国連学会：広報委員会委員						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無		採択状況		採択金額	
	○有 〇無				円	
					円	

氏 名		白旗 希実子				
職位・系・コース		准教授・地域経営系・政策コース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
学協会誌等						
査読無し学術論文等						
1	社会福祉士の労働状況：女性労働者に着目して	日本労働研究雑誌	62 (9) (pp. 52-59)	2020年 (令和2年)	白旗希実子	
紀要等						
1	英国におけるソーシャルワーカーの現状と質保証に関する制度の動向：子ども・家庭領域に着目して	公益文科大学総合研究誌	39 (pp. 89-97)	2020年 (令和2年)	白旗希実子	
2	教師にとって大事な業務とはなにか：自由回答における授業に関する記述の分析を通して	教職研究	12 (未定)	2020年 (令和2年) 3月発行予定	白旗希実子、石井美和、荒井英治郎	
3	学校教師の業務に対する負担感と委託に関する意識：アンケート調査の分析から	教職研究	12 (未定)	2020年 (令和2年) 3月発行予定	白旗希実子、石井美和、荒井英治郎	
2. 学会活動に関する業績 (今年度)						
①所属学会等(必須)						
日本教育社会学会 日本高等教育学会 日本産業教育学会 日本社会福祉学会 日本介護福祉学会 日本保健医療社会学会 東北教育学会 東北社会学会 山形県社会福祉士会 日本栄養改善学会 子ども社会学会						
②各種学会における活動状況						
日本職業教育学会 (旧名：日本産業教育学会) 2019年～ 理事、編集委員						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無		採択状況		採択金額	
	有・無		種別： 基盤研究C (代表)		900000 円	
			種別： 基盤研究B (分担)		30000 円	
民間助成	カシオ科学振興財団 共同研究者				0 千円	

氏名	小関 久恵					
職位・系・コース	講師・地域経営系・地域福祉コース					
3-1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
著書(翻訳含む)及び辞書等						
1	志水幸監修「社会福祉士 養成基本テキスト 国試 対応第2巻『福祉政策と 実施体制』」	日総研出版	第10章「福祉に 関わる専門職と 業務」(pp194- 239)を担当	2020年4月1日	志水幸、行貞伸二、志水 朱、早川明、宮本雅央、 田中康雄、長澤紀美子、 白山靖彦、飯塚慶子、小 関久恵、神部健史(執筆 順)	
学協会誌等						
査読有り学術論文等						
1	保健医療福祉系大学にお ける教養教育の問題 (11)－教養教育の職業 的レリバンス－	一般社団法人大学教育学 会	第42巻第2号	2020年12月	宮本雅央、遠藤良仁、小 関久恵、町田修三、早川 明、森元拓、山下匡将、 志水幸	
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	「誰にとってのレリバン スかー『具体的な立脚 点』と『複眼』の涵養」 「保健医療福祉系大学に おける教養教育の問題 (11)－教養教育の職業 的レリバンス－」	一般社団法人大学教育学 会	第42回大会ラウ ンドテーブル	2020年6月	小関久恵	オンラ イン
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
大学教育学会、日本社会福祉教育学会、日本福祉学会						
②各種学会における活動状況						
日本社会福祉教育学会理事(事務局長)						
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況) コロナ禍による活動の難しさはあったが、引き続き、酒田市日向地区において教育プログラムを通じた活動を行った。コミュニティセンターに開設したコミュニティカフェ「日向里かふえ」においては、ゼミ活動による子どもの遊び場(託児サービス)づくり「にっこりランド」を5回実施した(オンライン開催1回)。 また学生活動団体「Praxis」(スーパーバイザーを担当)が業務委託(助成金採択)を受けた「山形県若者未来創造事業フロンティアプロジェクト」(若者活躍・男女共同参画課所管)の中で、鶴岡市小堅地区で活動する学生団体「こがたん。」との連携・協働による対話型ワークショップを中心とした地域活動を実施した。 なお、日向コミュニティ振興会が「令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」(主催・公益財団法人あしたの日本を創る協会、NHK、読売新聞東京本社など)「主催者賞」を受賞し、「公益大との連携」や「大学生とのご縁」を含めた活動が評価された。					

氏名	渡辺 伸子
職位・系・コース	講師・地域経営系・経営コース
1. 研究発表 なし	
2. 学会活動に関する業績	
①所属学会等(必須)	
日本心理学会・日本青年心理学会・日本パーソナリティ心理学会・日本応用心理学会	
②各種学会における活動状況	
応用心理学会大会委員を引き受けた。2021年度大会においてシンポジウムの企画等を行う。	

氏名	松尾 慎太郎					
職位・系・コース	講師・地域経営系・経営コース					
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
著書(翻訳含む)及び辞書等						
1	第8章 アメリカにおけるデータ・アナリティクスの動向(『テクノロジーの進化と監査: AIとデジタル技術が拓く新たな監査の可能性』所収)	同文館出版	111~119頁	2020年 (令和2年)	松尾慎太郎 (瀧博編著)	
2	第11章 Continuous Auditingについての論点整理(『テクノロジーの進化と監査: AIとデジタル技術が拓く	同文館出版	145~157頁	2020年 (令和2年)	松尾慎太郎 (瀧博編著)	
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
日本会計研究学会、日本監査研究学会、国際会計研究学会、アメリカ会計学会。						
②各種学会における活動状況						
日本会計研究学会スタディ・グループ メンバー 日本会計研究学会特別委員会 メンバー						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有・無 (有)	種別: 基盤研究(B)	(分担) 442,000 円			
		種別:	円			

氏名		樋口 恵佳				
職位・系・コース		講師・地域経営系・政策コース				
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦年 (元号併記)	発表者名(共同発表の場合は論文等に記載した順に本人も含め記入)	開催形態
学協会誌等						
査読有り学術論文等						
1	(研究ノート)国連海洋法条約における条約の実施状況把握体制—締約国会議(SPLoS)と国連総会、「権限のある国際機関」の「分業」体制に着目して	日本海洋政策学会誌	10	2020年 (令和2年)	樋口恵佳	
紀要等						
1	船舶による油汚染事故の民事責任制度と費用分担—モーリシャスにおけるWAKASHIO 事故を契機として—	海洋政策研究(笹川平和財団海洋政策研究所)	15	2021年 (令和3年) ?月発行予定 (掲載決定済)	藤井麻衣、樋口恵佳	
総説・解説等						
1	モーリシャスにおける貨物船からの油流出事故の法的側面 - 船舶由来海洋汚染の防止と損害賠償・補償の観点から	海の論考 OPR Perspectives	11	2020年 (令和2年)	藤井麻衣、樋口恵佳	
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	(査読あり)Reviewing institutional arrangement of UNCLOS for watching implementation; for considering draft clauses in new BBNJ agreement	6th International Marine Conservation Congress (IMCC6)		2020年 (令和2年) 8月26日	Eka HIGUCHI	オンライン
2	BBNJの保全と持続可能な利用に関する能力構築制度[原稿報告]	BBNJ研究会(日本海洋法研究会)		2020年 (令和2年) 9月21日	樋口恵佳	オンライン
3	沿岸国の主権と寄港規制および検疫措置について	「国境」研究会(主催:立命館大学 宮脇昇先生)		2021年 (令和3年) 3月3日 (開催予定)	樋口恵佳	オンライン
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
国際法学会、日本海洋政策学会、世界法学会、グローバル・ガバナンス学会、国連学会、青森法学会						
②各種学会における活動状況						
国際法学会若手研究者育成委員会 委員([2期目]2020年-2022年) グローバル・ガバナンス学会 NL委員(2020年-)						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有・無	種別:	結果待ち	円		
受託研究関係	件数	契約先名		契約金額		
	3件	笹川平和財団海洋政策研究所(白書)		548,560円		
		笹川平和財団海洋政策研究所(海洋政策)		548,560円		
		日本海洋政策学会(課題研究費)		(分担で約)14,000円		
4. その他						
地域課題関係	(地域課題解決のための研究・活動状況) 呉尚浩教授と海洋ごみ関係の国内法に関する共同研究を実施中(論文投稿済み・査読中)					

氏名	佐藤 昭洋					
職位・系・コース	助教・地域経営系・地域福祉コース					
1. 研究発表						
整理番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場合 は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
学協会誌等						
査読無し学術論文等						
1	【調査報告】東北六県における方面委員制度草創期の制度概要—活動実態調査の前段階として— 佐藤昭洋	地域社会福祉史研究会連絡協議会	『地域社会福祉史研究』第9号 (91-103)	2021(令和3) 年3月発行予定	佐藤昭洋	/
紀要等						
1	【研究論文】戦後混乱期における生活困窮と援護の地域史—1945年から1947年頃の山形県を素材にして— 佐藤昭洋	東北公益文科大学	『東北公益文科大学総合研究論集』第39号 (43-68)	2021(令和3) 年1月31日発行	佐藤昭洋	/
口頭発表等(招待講演・学会発表等)						
1	山形県における戦後混乱期と生活困窮—新聞記事からみる1945年から1947年までの困窮実態と援護活動— 佐藤昭洋	社会事業史学会第48回大会		2020(令和2) 年5月9-10日 (開催中止)	佐藤昭洋	フル ペー パー 提出 により 学会 報告 成立
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
社会事業史学会、日本社会福祉学会、東洋大学社会福祉学会						
②各種学会における活動状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・社会事業史学会第48回大会(5月9-10日)は開催中止となったが、フルペーパー提出により学会報告が成立した。 ・日本社会福祉学会第68回大会(9月12、13日)はオンライン開催となったが、「スタートアップ・シンポジウム」のプログラムに参加した。 						
3. 研究資金獲得状況						
科研費関係	申請の有無	採択状況		採択金額		
	有・無	種別： 挑戦的研究(萌芽)		審査中 円		
	有	種別：		円		

氏 名		バンティング ティモシー				
職位・系・コース		助教・交流文科系・国際教養コース				
1. 研究発表						
整理 番号	論文名・著者名	発表学協会誌 又は発行所	巻・号頁(-)	発表・発行西暦 年(元号併記)	発表者名(共同発表の場 合は論文等に記載した順 に本人も含め記入)	開催 形態
学協会誌等						
査読無し学術論文等						
1	Effective Implementation of Content-Based Language Teaching in the Japanese Context	Bulletin of Tohoku Koeki University	38・1-5	Apr-20	Bunting, T. & Sultonov, M.	
国際会議発表論文等						
1	Application of Content- Based Language Teaching Methodology in International Liberal Arts Education	Global Conference on Advances in Education and Research, GCAER, Tsuruoka, November 2020		Nov-20	Sultonov, M., Bunting, T. & Arskaya, J.	
2. 学会活動に関する業績						
①所属学会等(必須)						
JALT, Institute of New Zealand Studies, 国際交流会、酒田市国際交流会						